

藤岡ひかる先生の記念講演の感想

国病久原会 会長 廣田典祥

はじめに

国立病院機構長崎川棚医療センター院長藤岡ひかる先生（元、当センター副院長）に 国病久原会総会の記念講演を数年前から予定しておりました。ところがコロナ禍のもと総会は現実的には開催困難な状況が続いております。そこで当会の活動に空白期間が長くなるのを避けるため、記念講演だけでも途切れてはならないと考え、次善の策として、藤岡先生にホームページ上ではありますが、第19回国病久原会総会記念講演をやって頂くことにしました。それは既に当会のホームページ「総会記念講演集」に搭載しております。先生には大変多忙な中、快く引き受けていただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

そこで、講演者の藤岡先生の労に報いるべく、講演を読んだ感想を、当センター院長八橋先生をはじめ、お寄せ戴いた方々の感想文を掲載いたします。

国立病院機構長崎医療センター 院長 八橋 弘

藤岡先生の寄稿文、拝読しました。

書かれた文章ではありますが、まるで目の前で藤岡先生が語っておられるかのような臨場感と、また藤岡先生の長崎医療センターに対する熱い思いが、ひしひしと伝わってきました。

当院に在職中、傍で拝見していて、藤岡先生は普段から良くメモを取られていて、記録をしっかりと残される外科医であり副院長であられると感服していたのですが、今回の寄稿文にも、そのことが表れていると思いました。私が忘れてしまっていたことも鮮明に蘇ってきました。

筆者の思い、想いが込められていて、国病久原会への寄稿文として、とてもふさわしいと思いました。

国病久原会 会長 廣田 典祥

ご講演を拝読して、先生の医療への向き合い方が、実によく伝わってきました。また

一医師としての個人史を中心に、ノスタルジーを交えてのご講演かと思います。

藤岡先生は師と仰ぐ人からの助言を受けたことや切磋琢磨する同僚との出会いや別れ等を回想しておられます。留学経験や国際交流を通じて広範囲な医療の世界を見聞されました。優れたチーム医療なくしては肝細胞癌治療切除後の生存率で好成績を収めることは出来なかったと述べるなど、肝臓外科にこだわりを持った消化器外科医としての足跡をのべられました。副院長に就任されてから危機管理を優先した病院管理を行わなければならないなど、このように、医師としてのプロの流儀を余すところ無く示して戴きました。

今日、コロナとの共存時代に入り、何かと不安定な世の中になりました。これから未来への展望をどうしたら良いのか迷いを感じておりました。そうした中、ご講演の締めくくりの言葉、「人生の財産は、出会った皆さん方です」というメッセージを読んで、人生の価値をしっかりと見据えておられるのに強い感銘を覚えました。同時にエンカレッジメントを得た次第です。何事も先生の前向き、ポジティブな姿勢に心をうたれます。

会員の皆様は無論、現職員の方々もどうか本講演を読んでいただきたいです。この講演には次世代を担う医療人にとって有意義なメッセージが随所に含まれているように思います。

院長職という、大変多忙な中にもかかわらず、素晴らしい記念講演を HP 上に発表して頂き、国病久原会会員一同を代表させていただき、藤岡先生に心からの感謝の念を申し上げます。先生におかれましては、当会の運営についても、これからもご助言ご指導をくださるようお願いいたします。

さらに、先生のご活躍と長崎川棚医療センターの発展を祈ります。

長崎県病院企業団企業長 米倉 正大

藤岡院長の講演を読ませてもらいました。彼の思いがよく述べられていたと思いました。彼との出会いは、私が院長になった時に、外科部長として長崎医療センターに来ていただいた時です。当時の第2外科の兼松教授から、肝臓手術では非常に腕の立つ外科医なので、長崎医療センターでも活躍するだろうという話でした。実際、肝臓の手術はもちろんですが、日本でも有数の外科手術の病院として立ち上げてもらいました。私が退職した後は、外科医としての活躍のほか副院長として彼の実直な性格を発揮され、管理部門で見事長崎医療センターを引っ張って行かれたのを、外から見てきました。また、在任中、部下の永田先生を長崎大学に教授として送り出されました。その姿勢が認められ、長崎川棚医療センターの院長として栄転されたのは、この講演を見れば明らかです。長崎川棚医療センターを、これほどまでに育て上げられているのは、長崎医療センターで鍛えられた管理職としての長崎医療センター魂が生き続けているのだと強く感じました。ありがとうございました。

医療法人和光会 恵寿病院院長 中原 賢一

藤岡先生の寄稿文、読ませていただきました。先生の医師として、また管理職としての思いが詰まっていると素晴らしい内容だと思います。本来ならご講演いただきたかったところですが、コロナウイルスの感染リスクが高い現状では、ホームページ掲載もやむを得ないと思います。

寄稿文の中で、先生が医師としての理想を追求され、臨床家として、また研究者として素晴らしい実績を積み上げてこられたことを知りました。私が存じ上げている長崎医療センター時代も、外科チームを率いて臨床や研究に活躍されていました。

私は藤岡先生と入れ替わりに、長崎医療センターから離れましたが、先生が管理職として、持ち前のバイタリティーで医療センターの皆さんをひっぱり続けられていることはいつもお聞きしていました。

素晴らしい野球選手が、素晴らしい監督になれるとは限りません。医師も臨床家と管理職を両立させるのはなかなか難しいと感じます。藤岡先生はその点、両方をこなせる方だと思います。今後もさらなる高みを目指して活躍していただきたいと期待しています。